子と手と手

岡山発 国際貢献

大人も子どもも（京山の挑戦３）

輪を広げる活動模索

ジレンマ

水と緑のグループに分かれて行う環境点検（年四回）には毎回、小中学生や大学生、ボランティアら七十人前後が参加する。公民館講座としては大成功。だが、回を重ねるごとに、顔触れが同じで活動が広がらない、というジレンマが募った。必要なのは「地域に浸透する仕組み」だった。

そこで昨年十月、池田と杉村は、地元町内会や婦人会、老人クラブの代表、小中学校長らでつくる公民館運営協議会に呼び掛け、「協議会としてESDを推進する」との合意を得る。

メーン行事として「ESDデー・フェスティバル」開催を決定。時期を今年二月とし、地球温暖化防止対策の一環で、電気や水の節約などに取り組む「チャレンジシート」運動を地域で展開することも決めた。

シートには「冷蔵庫の扉はすぐ閉めた」「レジ袋はもらわなかった」など、十の取り組み目標があり、実践した項目をチェックしていけば、十日間でCO_2をどれだけ削減できたかグラム単位で計算できる。

今年一月七日。第一回実行委員会には、小学生から高齢者まで約三十人が出席した。

京山中科学部は温暖化防止の座談会を提案。伊島学区コミュニティ協議会長の村岡鹿次(七七)は、昔の生活を伝える語り部に立候補。同学区婦人会長の末房富美子(六三)はエコ料理の指導を申し出た。「どうせやるんだからたくさん来てもらおう」。約一万世帯に配布するちらし作りも始まった。

ＫＥＥＰはこの冬、環境点検とＥＳＤを地域に広げる運動を展開した＝１月、岡山市京山公民館

一足早く

国連キャンペーン「ESDの十年」に連動したわが国の実施計画が今年三月末、策定された。

平和、貧困、環境など多様な課題がある中、わが国は大量生産・大量消費の生活スタイルや産業構造の転換、生物多様性の確保など環境保全を中心に取り組むことを明示。多様な団体、個人の連携を重視するほか、地域に立脚した活動を支援することなどが盛り込まれている。京山地区は一足早く、国が示すモデル的な活動を模索していた。

地域の団体はチャレンジシートを手配り。伊島小、津島小は高学年を中心に輪を広げていった。

「チャレンジシートに協力をお願いします」

一月二十三日午前八時半。京山中の全校生徒七百五十人に、科学部長・守本祐一と副部長・小延靖史は、朝礼台の上から呼び掛けた。

科学部が二年生に行ったアンケートでは、「地球温暖化」の言葉を99％が知っていたが、興味を持つ生徒は19％だけ。「興味を持ってもらうためにも、ぜひ参加して」。二人は声を張り上げた。

（敬称略）

第6部 地域で動く ④

ご意見をお寄せください。〒700-8734、山陽新聞「国際貢献取材班」。ファクス（086-245-5296）、メール（kokusai@sanyo.oni.co.jp）。